

理事長挨拶

令和4年 理事長念頭所感より

新年おめでとうございます。

昨年を振り返って1年間の大きな流れについてお話しします。まずコロナ関連、次に人手不足により16年運営してきた通所の閉鎖、そしてICカード導入です。

コロナに関しては、まず発熱外来を行い、入院患者を受入れ、新型コロナワクチンを一般市民13,256人に接種しました。すごい人数ですが、職員諸君の頑張りのお陰で無事にワクチン接種を完遂する事が出来ました。

人手不足については、通所利用者は大変多くて、年間8,000万円の収入がありました。ところが人が足りない、運営できないというという申し出で、とうとう閉鎖する事にした訳です。今年はベトナム人介護士を採用する予定ですが、コロナの影響で来日できるかわかりませんが、順調にいけば4月から入職する予定です。

次にタイムカードシステムを導入しました。これは働き方改革の一環で導入しなければならなかったのですが、職員全員が30分残業すると、試算では8,000万円の支出が生じるらしいです。1時間残業すると1億6,000万円となります。昨年末の賞与資金調達額1億5,000万円でしたので、1時間の残業で賞与資金が吹っ飛びます。もちろん救急患者や急変患者対応など、やむを得ない事情での残業は何も問題はありませんが、ただ何もしないで職場に残り帰るときにタイムカードを打刻すると残業となってしまうので、業務が済んだら定時に帰宅するようにしてください。そうしないと今年の賞与はありませんと言い兼ねません。

今年の総合目標です。

『青雲会は社会貢献の為の組織である

個々人が自己実現に努力し 皆で学ぶ組織 教える組織を作ろう

いろんな障害があっても それを糧にし 明るく笑いのある職場にしよう

人生に於いて 優柔不斷は最悪の選択であり 多く笑うものは 幸福である』

それぞれ説明します。

『青雲会は社会貢献の為の組織である』

これは青雲会の理念の通りです。

このことを『皆さんに自覚して努力』をして下さい。

この組織は『みんなで学んで、そしてみんなに教える組織にしましょう。』

これはピータードラッカーという元々ユダヤ人で、アメリカに帰化した人ですが、有名な経済人であり、なお且つ哲学者です。この人が「組織は皆が学んで、そして皆に教えないといその組織は衰退していく。だから一生懸命学んだことは皆に教えましょう」という事を言っています。私もその通りだと思います。

『いろんな障害があっても それを糧にし 明るく笑いのある職場にしよう』

色々なトラブルが起こるときは顔が暗くなってしまいます。「そんなことはどうでもいいじゃないか、頑張ろうぜ」というふうに、明るい顔で職場に出勤していいただきたいということです。

『人生に於いて 優柔不斷は最悪の選択である』

鹿児島弁で「泣こよかひつ飛べ」という言葉があります。あれこれ迷っているよりもやってしまえ、自分で決断したことは失敗してもしょうがない、自分が決めたことだと思って、即断即決することが人生においては重要です。これはアランという哲学者の言葉です。私の思考にあっていると思い取り入れました。

『多く笑うものは 幸福である。』

当然ですが、笑うということは幸せな環境でないと笑えないですね。

これをひとつひとつコロナに関連付けて話をします。

『青雲会は社会貢献の為の組織である』

一昨年の3月頃、あの頃はコロナがヨーロッパ・アメリカに蔓延して、日に何十万人、そして最終的に1億を超える人が感染し何百万という人が死んで、非常にコロナというのは恐ろしい病気であるということが世界中、日本中に知れ渡っていました。その時に鹿児島県から、青雲会はコロナ対応病院になってくれないかと言われ、私がいの一番に手を上げたわけです。この事は、最初に青雲会が手を上げたものですから、その後を県内の医療機関が追随したという話を後で知りました。そして県の評価も高いと愛甲先生からの報告がありました。ですから「先んずれば人を制す」という言葉がありますが、やはり最初に何かをするということはいかに重要なか、怖がってばかりいても何も生まれないということです。

まず発熱外来をして、それによって検査をし、画像診断を行って、コロナというはどういう肺炎を起こすのかという特徴を掴まえ、そして入院を受け入れる。

入院はこういう人は重症化する、こういう人は重症化しない、どういう薬を使えばよいかということも入院患者を扱うことによって、島内院長や川井田善太郎先生が身をもって治験例を得たようです。やはり、やってみなければわからない、やってみて初めて分かったわけです。

『個々人が自己実現に努力し 皆で学ぶ組織 教える組織』になってきた。

まさに青雲会そのものです。ですから、何かあるときはみんなで学んで、それをみんなに教えましょう。一人だけで囮い込んでいては誰も何もわかりません。その人がいなくなったらそれでその話は無くなります。

『いろんな障害があっても それを糧にし 明るく笑いのある職場にしよう』

これは組織においても人生においても色々な失敗や紛争ごとがあります。それに対して逃げたり避けたりしても何も生まれません。また同じことを繰り返すはずです。そういう失敗を繰り返さない為にも、我々はその失敗・争いごとをしっかりと受け止めて、改善すべきは改善し、そしてそのことを全て糧にして搖るぎのない 明るい職場を作りましょう。「過ちを改むるに如くはなし」という言葉がありますが、失敗しても直ぐに改善すればいいんだよということですので、いろいろことに挑戦し失敗しようと「それがどうした」という気持ちでは是非取り組んでいただきたい。明るいことはいいことです。明るくないと、この貴重な人生もったいないです。 せっかく平和なこの日本に生まれたのですから明るい笑顔を常に心がけていただきたいと思います。暗い顔をしていたって人生もったいないですよ。

『人生に於いて 優柔不斷は最悪の選択』

一昨年 3 月コロナ対応病院ということで、いの一番に手を上げたわけですが、この時社会では有名な芸能人やいろんな人たちがコロナ感染症死を起こしていました。コロナという病気は非常に危険な病気であるということが日本中に知れ渡っておりました。そして、多くの医療機関がクラスターを発生させ、その為に職員が大量に退職したり、職員の家族が感染し、それから職員の子供さん達が学校に行ったら、コロナ病院の子供ということで謂れ無き誹謗中傷を受けていたということが、テレビなどで話題になっておりました。ですから、青雲会がコロナを受け入れるということは、おそらく患者が来ないかもしれない、それからほとんど入院も無いだろう、要するに減収、場合によっては倒産の可能性がある事を覚悟しました。しかし、「青雲会の存在価値はこの時にこそある」という私の信念で、コロナを受け入れるということを決めたわけです。その結果、昨年 4 月 5 月は悲惨でした。外来患者はほとんど来ない、入院も酷かった。今まで平均で 120~130 人の 入院患者数だったのが、70 人代の数値に落ち込みました。この状態だと令和 3 年度は 3 億円以上の減収になりそうだなど覚悟していましたが、国がコロナ対応 病院に補助金を出してくれました。「天は自ら助くる者を助く」という言葉があります。本当にその通りだと思いました。一生懸命信念に基づいて仕事をすれば、どこかで神様は見ていてくれるということです。ぼうっとしていたら何も出てきません。是非皆さんしっかり努力して人の役に立つ仕事をしていただきたいと思うわけです。

『多く笑うものは 幸福である』

口腔外科で治療を受ける時、タオルを目に被せられ何も見えなくなります。見えなければ、職員の会話が良く聞こえます。その時、歯科衛生士の藤崎さんと看護師の松尾さんが居まして、藤崎さんが「〇〇を持ってきていただけませんか」と言ったら、松尾さん「かしこまりました」と言いました。職種も違えば年齢も違うはずです。松尾さんが年上じゃないかと思いますが、それでもこのように丁寧な言葉で 会話をするのが素晴らしいと思いました。そこで「君たちは素晴らしい」と言ったら「光栄です」と答えてくれました。良く教育されているなと感心したものです。立派なもんですね。

それから もう一つ、Dr. コトーで知られている甑島の瀬戸上先生が目の検査に来られ、その時、奥さんも一緒にについて来られました。私が外来などを少しお見せしたのですが、その後、専務に電話がきたそうです。「青雲会は奇麗。椅子が奇麗。それから臭いがしない。トイレが奇麗。だから私は家に帰ってすぐトイレの掃除をしました。」ということで、第三者から見て、この病院の環境は素晴らしいということを教えてもらいました。いつもこの中に居るとわかりませんね。皆さんはこういう素晴らしい環境の中で仕事をしているわけですが、これにお互い同士が丁寧な言葉を使うともっと仲良くなつて、そして笑いの多い職場になると思います。 多く笑ってこの職場で仕事ができることが幸せだなとは非感じいただきたい。この事は日常に染まっているとなかなかわからないですね。あえてこの場を借りてこの話をしました。

もう一度総合目標です。

『青雲会は社会貢献の為の組織である

個々人が自己実現に努力し 皆で学ぶ組織 教える組織を作ろう

いろんな障害があっても それを糧にし 明るく笑いのある職場にしよう

人生に於いて 優柔不断は最悪の選択であり 多く笑うものは 幸福である』
しあわせ

今年一年大いに笑って是非幸福を味わって下さい。